埋蔵文化財と文化財建造物のミニ情報誌

文化財センター通信
【かざぐるま】

風車

第 36 号
平成19年9月25日発行

紀州の歴史と文化の風

財団法人　和歌山県文化財センター

県指定史跡水軒堤防 発掘調査概要報告!!

今回は、今年三月に発掘調査を実施した県指定史跡水軒堤防の調査概要について報告します。

水軒堤防は、和歌山市西浜に所在する江戸時代に築かれた防潮・防波堤防で、平成17年度の道路改良工事に伴う発掘調査の結果、高い技術で築造された石積堤防であることが明らかになりました(風車第13号)。

今年三月には、県教育委員会によって水軒堤防の範囲と内容を確認するための調査が実施されました。このうち当センターがおこなった発掘調査部分について報告します。

調査概要

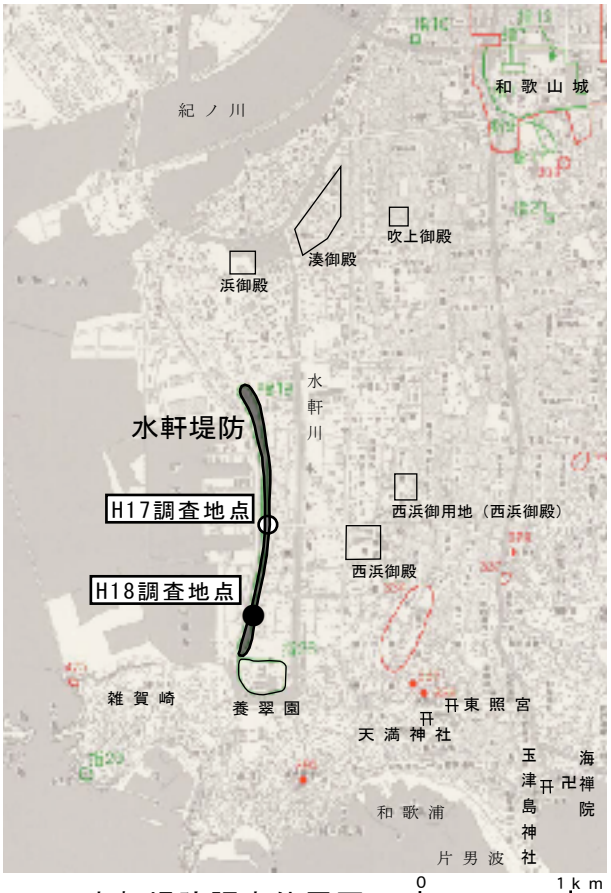
・調査地点

水軒堤防は昭和のはじめまでその一部が露出していました。このため昭和二年に書かれた「雑賀村誌」や地元の聞き取り調査により、石堤の南端部とされる部分を調査地点としました。この結果、想定どおり南端部分を確認することができました。

・堤防の構造

平成17年度の調査でも一部明らかになっていましたが、大きくは海側の石堤部分とその背後の土盛部分から構成されています。

石堤部分　波のエネルギーを強く受ける前面の石積みは和泉砂岩製で、布積み（横方向の目地が一直線に並ぶような積み方・写真1）、切り込みはぎ（石材間の隙間がないように石を加工した積み方・写真2）といった技術を用いています。これに対し、土盛で覆われる石堤背面は緑泥片岩（一部和泉砂岩）の石積み（写真3）が用いられ、表と裏で明確に使い分け



水軒堤防調査位置図

図面及び写真は「平成18年度県指定史跡水軒堤防の発掘調査」
『地宝のひびき－和歌山県内文化財調査報告会資料集－』より転載

－第36号の主な内容－

1．県指定史跡水軒堤防
　発掘調査概要報告

2．『地宝のひびき－和歌山県内
　文化財調査報告会－』
　・報告内容と報告者の顔
　・アンケート集計など

られています。南端部南面ではちょうど中央付近で和泉砂岩と緑泥片岩の境界が認められます（写真６）。

また、南西コーナー部分の石積みは、丸みを持たせて特に精緻な切り込みはぎにより積まれており、他の部分とやや技術的に異なることから改修の可能性も考えられます（写真２）。

土盛部分　二箇所について部分的に掘り下げたところ、平成17年度の調査成果と同様に黄橙色土で上面を突き固めていることがわかりました。その直下は細砂となりますが、0.5～1ｍ下にも黄橙色の土があり、その上面には石材を加工した際に出たと思われる和泉砂岩の割り石が詰められていました（写真５）。

この土盛の南面は、石堤南側面と揃うように緑泥片岩で石積みがなされています。補足調査では、この石積みは南東のコーナー部でカーブを描いて背面（東側面）に続いており、東に進むにつれ粗雑になることが観察できました（写真４）。

基底部分　南側面の一部を石堤底まで掘り下げたところ、緑泥片岩の割り石を敷きその上に石堤を築いていることがわかりました。

また、石堤の南側には、基底部の高さで石を敷き詰めていたことが確認できました。西半部は敷石が抜けてしまったと思われます。石堤の土台となる土を波による侵食から守るためのものと考えられます（写真６下）。

・堤防の規模

平成17年度の調査成果とあわせて水軒堤防のおおよその規模がわかってきました。調査部分で高さ約4.2ｍ、上端幅８～９ｍ（このうち石堤上端幅約3.5ｍ）、石堤西側面（海側）傾斜角約40度、石堤東側面傾斜角53度（H17調査）、南側面傾斜角約50度です。この堤防の長さは文献や聞き取り調査からの推定となりますが、１kmあまりになると思われます（調査は未実施ですが、この南北にはさらに裏堤が続くとされています）。

・築造年代

出土遺物がなく、築造年代は確定できていないのが現状です。しかし、石積の技法、石を切り出すときにつけられた矢穴痕の形状から考えて18世紀代の築造の可能性を考えています。

（佐々木）

写真１　布積み部分

写真２　精緻な切り込みはぎ部

写真３　背面緑泥片岩石堤(H17調査)

写真４　土盛南東コーナー部石積み（東から）

写真５　割り石出土状況

写真６　水軒堤防石堤南端部（南西から）

地宝のひびき
－和歌山県内文化財調査報告会－

7月14日開催
藤田憲司氏　記念講演！！
『4・5世紀の紀ノ川と海民
－瀬戸内・紀伊・大和の事情－』

【報告会の概要】

『地宝のひびき―和歌山県内文化財調査報告会―』を平成19年7月14日、岩出市民俗資料館で開催しました。昨年に引き続き、和歌山県下で行われている文化財調査について情報を広く提供し文化財への理解を知っていただく主旨で開催いたしました。

報告会の当日は、大型台風が接近する悪天候にも係らず、65名もの方々に足を運んで頂きました。また県内のみならず、県外からも来場していただき、盛況のうちに終えることができました。

今回の報告会は、藤田憲司氏（大阪府立近つ飛鳥博物館副館長）をお迎えして講演を賜りました。前方後円墳の分布について、瀬戸内との比較、海民と渡来文物についてなど、古墳時代の興味深い資料やお話を聞く機会となりました。県内の調査報告としては、各市町教育委員会の埋蔵文化財担当者を中心に昨年度の成果について発表していただき、当センターからは京奈和自動車道関連遺跡の調査成果について報告しました。

この『地宝のひびき』を通じて、地域の歴史や文化を考える機会になればと願っております。（津村）

報告内容と報告者の顔

記念講演
藤田　憲司氏　大阪府立近つ飛鳥博物館副館長
「４・５世紀の紀ノ川と海民
－瀬戸内・紀伊・大和の事情－」

報告
①和歌山市都市整備公社　井馬好英氏
「川辺遺跡の発掘調査」

②紀の川市教育委員会　立岡和人氏
「北山廃寺の確認調査－紀の川市貴志川町所在の飛鳥時代寺院の範囲確認調査－」

③和歌山県文化財センター　日置智氏
「京奈和自動車道関連遺跡の発掘調査」

④海南市教育委員会　矢倉嘉人氏
「鈴木屋敷の発掘調査」

⑤有田川町教育委員会　川口修実氏
「旧吉備中学校校庭遺跡発掘調査報告」

⑥白浜町教育委員会　佐藤純一氏
「高瀬要害山城の測量調査」

①井馬氏

②立岡氏

③日置氏

④矢倉氏

⑤川口氏

⑥佐藤氏

会場風景（岩出市民俗資料館）

報告会　アンケート結果

今回の報告会で、参加者の皆様から
アンケートに回答していただきました。
その結果を報告します。
昨年度より引き続き、皆様からの意見を
参考に今後の活動に活かしていきたいと
思っています。
(*印=報告者コメント)

■参加者について

男性…49名　女性…16名

参加者住所

和歌山市28名・岩出市12名・紀の川市13名・かつらぎ町5名・海南市2名・高野町1名・県内1名・県外3名

参加者年代(アンケートより)

20代1名・30代1名・40代3名・50代5名・60代16名・70代4名・80代2名

＊多かったのは60代・70代の男性。また、今回は考古学生の姿も見られ、記念講演が良い参加のきっかけとなったようだ。しかし、若い世代と女性層はまだまだ参加は少ない。

■アンケート集計(回答数32名)

☆文化財センターをご存知でしたか？

よく知っている…18名　なんとなく知っている…14名　今日まで知らなかった…0名

☆センターの催しに参加したことは？

よく参加している…6名　数回参加している…13名　一度参加したことがある…4名　初めて参加した…9名

☆報告会の内容は？

おもしろい…16名　まあまあおもしろい…10名　普通…3名　あまりおもしろくない…0名　おもしろくない…0名　無回答…3名

☆イベントの難しさは？

難しい…1名　少し難しい…3名　普通…21名　無回答…7名

☆今回の催しをどこで知りましたか？

新聞…1名　ポスター…3名　知人…6名　ホームページ…2名　案内のチラシ…22名(県文化財研究会7名・県立図書館2名・岩出市民俗資料館1名・きのくに歴史探訪館5名・センター2名)　和歌山市関係の職場で…2名　その他…1名

＊前回の報告会では、センターのことを知らなかった方が12.8%だった。センターについての活動をより多くの方に知っていただきはじめていることがわかる。また「どのような行事や企画があれば参加したいですか？」の質問には、現地説明会・建造物修復の見学・県内の社寺についての説明会という意見が多くよせられていた。

■皆さんの声(アンケートより)

◎良かった点

・和歌山県の埋蔵文化財の全体像を理解するのに役立った。

・県下全体を一度に知ることができる、貴重な機会に感じられた。

・地宝のひびきにふさわしい企画・発表でよかった。

◎改善すべき点・悪かった点

・テーマ毎に20分単位だと詳細な内容が聞けない。発表者もあせっている。

・余裕ある講演会を！。

・聞き取りにくかった。

・休憩をもう一度入れてほしい。

(報告　津村)

《編集後記》　次回の風車は、9月8日に行われた「京奈和自動車道橋本道路発掘調査報告会」の様子と藤並地区遺跡の調査成果について報告する予定です。お楽しみに！

(津村)

風車　第36号
平成19年9月25日　発行

(財)和歌山県文化財センター
〒640-8404
和歌山市湊571-1
Tel：073（433）3843
Fax：073（425）4595
e-mail：maizou-1@wabunse.or.jp
URL　http://www.wabunse.or.jp